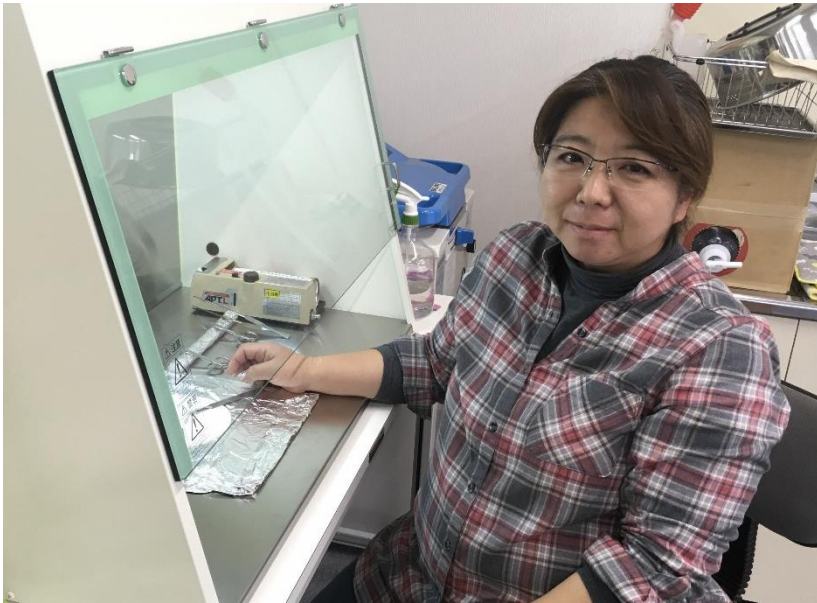


おおさか あきこ
大坂 亜希子さん

有限会社 大坂林業 取締役

1976年生まれ。幕別町（当時忠類村）出身。札幌の高校を卒業後、専門学校で資格を取って歯科技工士として札幌で勤務していたが、家庭の事情により帰郷し、父が経営する林業会社で働き始めた。社長と二人三脚で新たな取組を次々に開始。家族は、夫と子ども2人。



自分が役にたつことがなによりの生きがい

きっかけ

札幌の高校を卒業して、専門学校で歯科技工士の資格を取ってそのまま札幌で働いていたのですが、母が他界したことがきっかけで、32歳で実家に戻りました。札幌では仕事も面白い時期で24時間営業のようなハードワークでしたが、好きな仕事でお金を得ていたことに満足していました。ただ、全く自分の時間がなく、何のために仕事をしているかわからないような状況でした。帰郷して、家でぼーっとしていたら、父に仕事を手伝ってほしいと言われ、アルバイトとして畑に出て、そのまま今につながっています。

満足度

我が社は、苗畑で苗木を育てて提供する仕事ですが、2000年代初めより、林業試験場から技術指導を受けて、樹木の組織培養による増殖を始めました。当初は、現在の社長である松村氏が顕微鏡を見ながら、作業を行っていたのですが、そのときに使っていた道具が、私が歯科技工士時代と同じだったため、すぐできるようになり、自分の得意とすることが活かせて喜びを感じました。また、従業員から相談を受けることが多く、「頼りにされている」「役に立っている」と実感できることが生きがいとなっています。

苦労

父が経営する会社なので、顔見知りばかりだったのですが、周りにしてみれば、社長の娘なので仕事に関してはすべてわかっていると思われるのはつらかったです。そういう意味では、役員として戻るのではなく、アルバイトして入ったのが逆によく、仕事仲間と同じ目線でいろんなものを見ることができました。人に聞くことを恥だと思っていないので、アルバイトの立場でいろんなことを学ぶことができました。そして、自然を体で感じるのが10年ぶりだったこともあり、仕事をしながら、ふと見上げると、空って青いなあと思いました（笑）

これから

樹木の組織培養の仕事を一手に引き受けるようになり、自分が役に立つことは自分の生きがいになるんだなと実感しました。社長は、どんどんどんどん前に進んで行くタイプなので、アフターフォロー（笑）と事務経理が私の担当です。自分が得意なことと社長が得意なことが真逆なので、いい関係になっていると思いますし、これからもこのバランスで行きたいと思います。他の仕事としては、樹木以外の培養にも取り組んでいて「培養と言えば大坂林業」と、言っていただけようになってきました。これらも軌道に乗るように頑張っていきます。

十勝の女性は、開拓者精神があって発想の転換も抜群。気づいたら当たり前のように助けあっていて、同業者でもウィンウィン関係になっていることが多い気がします。大変なときでも周りの人に助けてもらいながら、一緒に頑張っていきましょう！